

2008年3月期 中間決算概要（連結）

1. 業績の概況

（単位：億円）

区 分	2006年度 上期実績 A	2007年度 上期実績 B	増 減		2006年度 通期実績
			金 額 B-A	% B/A*100	
営業収益	3,396	3,608	212	106.2	6,902
高速道路事業	3,175	3,426	251	107.9	6,356
（料金収入）	3,117	3,115	△1	99.9	6,103
（道路資産完成高等）	57	310	253	540.9	253
休憩所事業	136	131	△5	95.9	257
その他（関連）事業	84	51	△33	60.6	288
営業費用	3,095	3,354	258	108.4	6,714
高速道路事業	2,929	3,225	296	110.1	6,260
休憩所事業	81	77	△4	94.7	162
その他（関連）事業	84	51	△32	61.2	291
営業利益	300	253	△46	84.5	188
高速道路事業	245	200	△44	81.7	96
休憩所事業	55	53	△1	97.5	95
その他（関連）事業	△0	△0	△0	—	△3
経常利益	302	255	△47	84.3	201
中間（当期）純利益	171	151	△20	88.0	116

※ 実績金額は、億円未満の端数を切り捨てて表示しております。

（注）事業内容の種類、性質等の類似性、損益集計区分及び関連資産に照らし、以下のように事業区分を行っております。

事 業	業務内容	
高速道路事業	建設事業	高速道路の新設、改築
	保全・サービス事業	高速道路の維持、修繕、災害復旧その他の管理
休憩所事業	高速道路内におけるサービスエリアの建設、管理及び運営	
その他（関連）事業	受託事業、トラックターミナル事業、占用施設活用事業、物販事業等	

2. 通期見通し

(自 2007 年 4 月 1 日至 2008 年 3 月 31 日)

(単位: 億円)

区 分	2007 年度 当初計画 A	2007 年度 通期見通し B	増 減		2006 年度 通期実績
			金額 B-A	% B/A * 100	
営業収益	7,867	7,529	△338	95.7	6,902
高速道路事業	7,366	7,054	△312	95.8	6,356
(料金収入)	6,025	6,062	37	100.6	6,103
(道路資産完成高等)	1,341	993	△348	74.0	253
休憩所事業	274	267	△7	97.4	257
その他(関連)事業	227	208	△19	91.6	288
営業費用	7,766	7,405	△361	95.4	6,714
高速道路事業	7,356	7,004	△352	95.2	6,260
休憩所事業	181	188	7	103.9	162
その他(関連)事業	229	213	△16	93.0	291
営業利益	101	124	23	122.8	188
高速道路事業	10	50	40	500.0	96
休憩所事業	93	79	△14	84.9	95
その他(関連)事業	△2	△5	△3	—	△3
経常利益	92	123	31	133.7	201
当期純利益	55	72	17	130.9	116

端数処理の関係で計が合わないことがあります。

(参考) 主な経営成績の推移

(単位: 億円)

	第 1 期	第 2 期		第 3 期	
		中間期		中間期	
営業収益	3,596	3,396	6,902	3,608	—
営業利益	227	300	188	253	—
経常利益	235	302	201	255	—
当期純利益	118	171	116	151	—

※設立第 1 期は、2005 年 10 月 1 日から 2006 年 3 月 31 日までの 6 ヶ月の期間。

3 トピックス

(1) 高速道路事業

(実施した施策)

6月23日に首都圏中央連絡自動車道（八王子JCT～あきる野IC 9.6km※）開通
4月1日からスマートIC（東名富士川SA、遠州豊田PA、東名阪道亀山PA）24時間営業開始

※開通延長9.6kmのうち9.2kmは、中日本高速道路㈱の所掌となり、残りの0.4kmは、東日本高速道路㈱の所掌です。

(中間期実績)

中間期の高速道路事業の営業収益は3,426億円（前年同期比7.9%増）、営業利益は200億円（18.3%減）を計上。要因は以下のとおり。

○上期は、景気の回復を背景に交通量が前年同期を上回り、料金収入が堅調に推移。

○次のような季節的な要因により、中間期の利益は大きくなる傾向。

- ・ ゴールデンウィークなどを含む上期は、下期と比較して料金収入が多い。
- ・ 費用では、雪氷対策や集中工事などの影響を受ける下期に比較して上期の費用が少ない。

○対前年比減益要因は、道路管理費用の増加によるもの。

(通期見通し)

2008年3月期の高速道路事業の営業利益は、50億円となる見通し。要因は以下のとおり。

○下期では、収益と費用の関係が上期と相反し、費用が収益を上回る見込みであり、通期の営業利益は中間期から大幅に減少する見通し。

(2) 休憩所事業

(実施した施策)

「より快適」「より便利」「より楽しい」サービスエリアの創造に向けて、「標準化」「個性化」を目指した取組みを実施。

①「標準化」

コンビニエンスストア8店舗※¹、デザートショップ3店舗※²を新規オープン。

※¹ 東名高速道路 : 日本平PA[Ⓣ]、新城PA[Ⓣ]、美合PA[Ⓣ]

中央自動車道 : 恵那峡SA[Ⓛ]

東名阪自動車道 : 大山田SA[Ⓛ][Ⓣ]

東海北陸自動車道 : ひるがの高原SA[Ⓛ][Ⓣ]

※² 東名高速道路 : 海老名SA[Ⓣ]2店舗、港北PA[Ⓛ]

②「個性化」

地域有名店など2店舗をリニューアルオープン。

新城PA[Ⓣ]・・・地域有名店の誘致【門前そば「山彦」】

日本平PA[Ⓣ]・・・「和の極み」をテーマにした本格的和食店舗【「なごみ処 駿河亭」】

(中間期実績)

営業利益は、ほぼ昨年並みの53億円(2.5%減)を計上。

(通期見通し)

2008年3月期の営業利益は、79億円となる見通し。

(3) その他のトピックス

【グループ管理体制の構築】

当社は、2007年4月に定めた新経営計画「チャレンジV」に基づき、高速道路事業の根幹をなす料金收受業務についてグループ化を行い、当連結会計期間末までに次の子会社が業務を開始しています。

(料金收受業務)

中日本エクストール名古屋(株) (2006年10月30日設立、2007年4月1日業務開始)

中日本エクストール横浜(株) (2006年10月30日設立、2007年4月1日業務開始)

また、他の維持管理業務(交通管理、保全点検、維持修繕)についても、今年度内を目標にグループ化することとしており、現在(2007年12月21日現在)までに次のとおり子会社化を行っています。

※()内は、業務開始日を示す。

(交通管理業務)

中日本ハイウェイ・パトロール名古屋(株) (2007年10月1日)

(保全点検業務)

中日本ハイウェイ・エンジニアリング名古屋(株) (2007年11月29日)

中日本ハイウェイ・エンジニアリング東京(株) (2007年12月25日予定)

(維持修繕業務)

中日本ハイウェイ・メンテナンス名古屋(株) (2007年11月20日)

中日本ハイウェイ・メンテナンス東名(株) (2007年11月26日)

中日本ハイウェイ・メンテナンス中央(株) (2007年12月14日)

中日本ハイウェイ・メンテナンス北陸(株) (2007年11月1日)

※ 上記2通期見通し、3トピックス中の業績予想(通期見通し)は、当社が現時点で合理的であると判断する一定の前提に基づいており、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績は、さまざまな要素により、上記計画数値と異なる可能性があることをご承知おきください。

以 上